

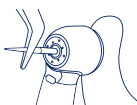
治療が終わりましたら必ずすぐ(1時間以内)に (PANA SPRAY Plusを使用した注油) 1~5の手順に沿ってメンテナンスを行ってください
血液などが付着したまま放置されますと、血液などの凝固が原因で腐食による発熱が発生し、火傷や故障の原因となる恐れがあります。

1. 準備

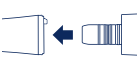
コントラアングル



① バーを取り外します。



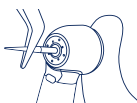
② ハンドピースをモーターから取り外します。



エアータービン



① バーを取り外します。



② 乾いた布を用いてハンドピースを拭き取ります。

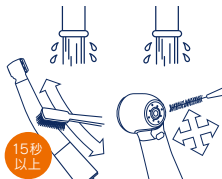


③ ハンドピースを20秒以上動作させ、異常がないことを確認します。



2. 洗浄/清掃/消毒

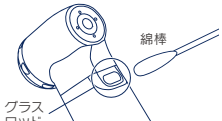
ハンドピースの洗浄



① ハンドピースに付着した汚れを流水下でブラシ(金属製は不可)を用いて洗浄します。

② 水分を吸水性のある布等で拭き取ります。

グラスロッドの清掃



グラスロッドにゴミや切削物などが付着した場合は、消毒用アルコールを染みこませた綿棒などで丁寧に拭き取ります。

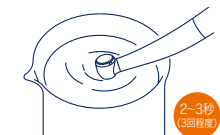
グリーンヘッドの清掃

②③⑤はエアータービンのみ

① クリーンヘッド穴まわりの汚れを歯間ブラシ等で落とします。



② ハンドピースを回転させたままきれいな水の中にヘッド半分が隠れるくらい入れます。



③ 回転を停止を2~3秒繰り返します。(3回程度)

④ ハンドピースを水から取り出し、きれいな布またはエアガンで表面の水分を取り除きます。

⑤ カップリングから取り外します。



消毒

清掃・洗浄を行った後、消毒用アルコールを染みこませた布などで丁寧に全体を拭き取ります。

3. 注油

PANA SPRAY Plusでの注油



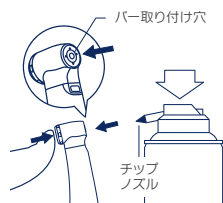
各患者の治療後、またはオートクレープ滅菌前には、以下の通り必ずパナスプレープラスで注油を行ってください。その際オイルの周囲への飛散を防ぐため、必ずハンドピースを布等で覆ってください。パナスプレープラスをご使用前はスプレー缶を3~4回よく振ってからご使用下さい。



チャック内の清掃

① パナスプレープラスのノズル部にチップノズルを取り付けます。

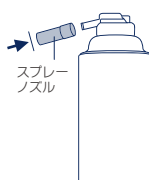
② プッシュボタンを軽く押しながらバーの取り付け穴へ直接スプレー注油を行います。



※FGバー使用製品の場合

注意: チャックの清掃を怠りますとチャック内にゴミがたまり、バーが抜けるなどの恐れがあります。ハンドピース先端から出てくるオイルの色が汚れている場合には、この汚れが無くなるまで繰り返し注油を行ってください。

① パナスプレープラスのノズル部に専用のスプレーノズルを強く挿し込みます。

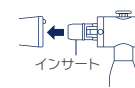


② スプレーノズルをハンドピース後部へ挿し込み、ハンドピースを押さえて、ハンドピース先端よりオイルが出るまで2~3秒スプレーします。注油は先端から異物等の汚れが出なくなるまで繰り返し行います。



4. 余剰オイルの排出

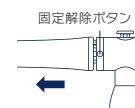
EZグリップセットを使用した余剰オイルの排出(コントラの場合)



① エアーに接続したEZグリップのインサートをハンドピース後部へ挿し込みます。

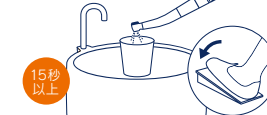


② エアブローボタンを約10秒程度押し、ハンドピース内に残留したオイルを排出します。



③ 固定解除ボタンを押しながらハンドピースを引き抜きます。

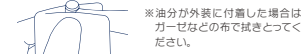
空運転による排出(エアータービンの場合)



① ハンドピースをカップリングに接続します。

② バーを取り付けず15秒ほど空運転します。

③ ハンドピースを取り外します。



※油分が外装に付着した場合はカーゼなどの布で拭きとってください。

5. 包装/滅菌

包装

注油により表面に付着したオイルをカーゼなどの布で全体を拭き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグに入れ、封印します。



注意

PVA(ポリビニルアルコール)等の水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)等の不具合を起こす場合がございます。

滅菌

オートクレープ滅菌を行います。以下の条件でオートクレープ滅菌を行ってください。



※132℃で15分以上、又は134℃で3分以上。
※ご使用のオートクレープ滅菌器の取扱説明書に従ってください。
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器を使用しないでください。故障の原因になります。

このマークの付いているナカニシ製ハンドピースは、135℃の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

警告

●治療が終わりましたら必ずすぐ(1時間以内)に、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してください。血液などが付着したまま放置されますと、内部で血液が凝固し、サビが発生することにより、発熱による火傷や故障等の原因になります。また、バーが取り外しにくくなります。

注意

●製品によって、浸漬および超音波洗浄器での洗浄が出来るものと出来ないものがあります。詳しくは、ご使用製品の取扱説明書をご確認ください。●酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ペンジン、シンナー等の溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。●熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食等の発生原因となります。

ウォッシャーディズインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

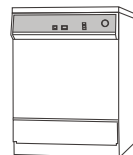
① ハンドピースホルダーに保持される部分は、消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。



注意: このマークの表示がある製品は熱水洗浄が可能です。製品の取扱説明書に従ってください。



② ISO15883-1に合致した熱水洗浄器を使用してください。熱水洗浄器の取扱説明書に従ってください。



注意

●各患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ベアリング等を潤滑するために必ず注油を行ってください。チャック内の清掃、ハンドピース内部への注油を怠りますとベアリング等の摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、または思わぬ事故が発生する恐れがあります。[ハンドピースの発熱や回転不良/異常な振動、音/バーの振れ/バーが抜ける、または抜けにくい/ベアリングの早期破損]

●パナスプレープラスを逆さにして使用しないでください。●ハンドピースをしっかりと押さえてください。スプレーの圧力によってハンドピースが飛び出す恐れがあります。●オイル飛散を防ぐため、ヘッドに布等をあてて注油する場合は、プッシュボタンを押さえないように注意してください(右図)。内部部品が破損し、バーが取り付けられなくなる恐れがあります。●他社製のオイルは使用しないでください。使用中にハンドピースが発熱する恐れがあります。●ハンドピース内の余分なオイルにより発熱する恐れがあるため、注油後はオイルを排出してください。



コントラアングルのメンテナンス動画はこちら



エアータービンのメンテナンス動画はこちら



治療が終わりましたら必ずすぐ(1時間以内)に (iCareを使用した注油) 1~5の手順に沿ってメンテナンスを行ってください。
血液などが付着したまま放置されますと、血液などの凝固が原因で腐食による発熱が発生し、火傷や故障の原因となる恐れがあります。



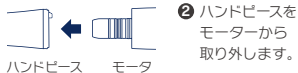
メンテナンスを行う際は感染予防のため、保護眼鏡、マスク、汚染されていない清潔なグローブを着用してください。

1. 準備

コントラアングル



① バーを取り外します。



② ハンドピースをモーターから取り外します。

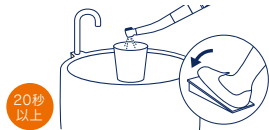
エアータービン



① バーを取り外します。

② 乾いた布を用いてハンドピースを拭き取ります。

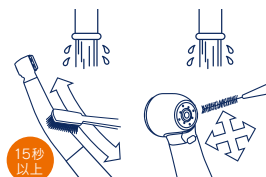
③ ハンドピースを20秒以上動作させ、異常がないことを確認します。



20秒以上

2. 洗浄/清掃/消毒

ハンドピースの洗浄

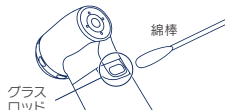


15秒以上

① ハンドピースに付着した汚れを流水下でブラシ(金属製は不可)を用いて洗浄します。

② 水分を吸水性のある布等で拭き取ります。

グラスロッドの清掃



グラスロッドにゴミや切削物などが付着した場合は、消毒用アルコールを染みこませた綿棒などで丁寧に拭き取ります。

クリーンヘッドの清掃

②③⑤はエアータービンのみ

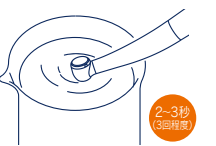
① クリーンヘッド穴まわりの汚れを歯間ブラシ等で落とします。

② ハンドピースを回転させたままきれいな水の中にヘッド半分が隠れるくらい入れます。

③ 回転を停止を2~3秒繰り返します。(3回程度)

④ ハンドピースを水から取り出し、きれいな布またはエアガンで表面の水分を取り除きます。

⑤ カップリングから取り外します。



2-3秒(3回程度)

消毒



清掃・洗浄を行った後、消毒用アルコールを染みこませた布などで丁寧に全体を拭き取ります。

3. 注油

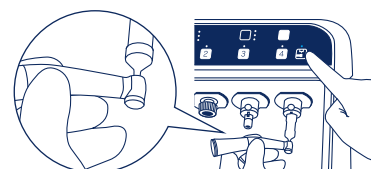
iCareでの注油



iCareを使用することで、ハンドピースの注油を自動で行うことが可能です。使用の際は、付属の取扱説明書をよく読んで上で、使用してください。

チャック内の清掃

iCareではチャック内の清掃を行うことができます。チャック内の清掃は、ジョイント"4"しか使用できません。



注：ハンドピース先端から出てくるオイルの色が汚れている場合には、この汚れが無くなるまで繰り返し注油を行ってください。弊社製ストレートハンドピースは、チャック内の清掃を行わないでください。故障する恐れがあります。

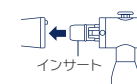
ハンドピースの取付

iCareは同時に4本のハンドピースに注油を行うことが可能です。コントラ2本タイプ、コントラ3本タイプの2種類がございます。



4. 余剰オイルの排出

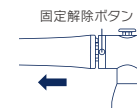
EZグリップセットを使用した余剰オイルの排出(コントラの場合)



① エアーに接続したEZグリップのインサートをハンドピース後部へ挿し込みます。

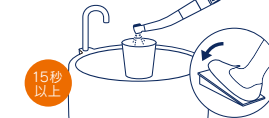


② エアブローボタンを約10秒程度押し、ハンドピース内に残留したオイルを排出します。



③ 固定解除ボタンを押しながらハンドピースを引き抜きます。

空運転による排出(エアータービンの場合)



15秒以上

① ハンドピースをカップリングに接続します。

② バーを取り付けず15秒ほど空運転します。

③ ハンドピースを取り外します。



※油分が外装に付着した場合は、ガーゼなどの布で拭きとってください。

5. 包装/滅菌

包装

注油により表面に付着したオイルをガーゼなどの布で全体を拭き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグに入れ、封印します。



注意

PVA(ポリビニルアルコール)等の水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)等の不具合を起こす場合がございます。

滅菌

オートクレープ滅菌を行います。以下の条件でオートクレープ滅菌を行ってください。



※132℃で15分以上、又は134℃で3分以上。
※ご使用のオートクレープ滅菌器の取扱説明書に従ってください。
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器を使用しないでください。故障の原因になります。

このマークの付いているナカニシ製ハンドピースは、135℃の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

警告

●治療が終わりましたら必ずすぐ(1時間以内)に、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してください。血液などが付着したまま放置されますと、内部で血液が凝固し、サビが発生することにより、発熱による火傷や故障等の原因になります。また、バーを取り外しにくくなります。

注意

●製品によって、浸漬および超音波洗浄器での洗浄が出来るものと出来ないものがあります。詳しくは、ご使用製品の取扱説明書をご確認ください。●酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬液、塩素系含有の溶液、ベンジン、シンナー等の溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。●熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食等の発生原因となります。

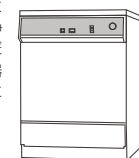
ウォッシャーディズインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

① ハンドピースホルダーに保持される部分は、消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。



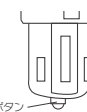
注：このマークの表示がある製品は熱水洗浄が可能です。製品の取扱説明書に従ってください。

② ISO15883-1に合致した熱水洗浄器を使用してください。熱水洗浄器の取扱説明書に従ってください。



iCareエアークリーナーの水抜き

エアークリーナーのケース内に水が溜まってきたら、ケースの下にあるドレンボタンを押して水抜きを行います。



注：それぞれの水抜きを1週間に1度行ってください。水抜きを怠ると、本製品内のメンテナンスオイルに水が混入する恐れがあります。

iCare使用時の注意

エアータービン、コントラアングルハンドピースは必ずバーを取り外してから、ジョイントまたはアダプターに装着してください。ただし、ストレートハンドピースの場合は、必ず付属のテストバーを取り付け、チャック開閉リングをロックしてからジョイントに装着してください。



注意

●患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ペアリング等を潤滑するために必ず注油を行ってください。チャック内の清掃、ハンドピース内部への注油を怠りますとペアリング等の摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、または悲しい事故が発生する恐れがあります。●他社製のオイルは使用しないでください。使用中にハンドピースが発熱する恐れがあります。●ハンドピース内部の余分なオイルにより発熱する恐れがあるため、注油後はオイルを排出してください。【ハンドピースの発熱や回転不良/異常な振動、音/バーの振れ/バーが抜ける、または抜けなし/ペアリングの早期破損】

